

記載上の注意事項

1. 履歴書（様式1-1）

- ① **学歴**は、大学入学以降の学歴、インターン歴、研究生などの研究歴を記入して下さい。
職歴には、給与関係を除いて下さい。なお、履歴の空白期間には、説明（自主研修等）をつけて下さい。研究歴及び教育歴には、所属講座・部門等まで記入して下さい。
- ② **免許及び資格**には、医師免許、歯科医師免許、認定医、専門医、指導医、標榜医等を記入して下さい。
- ③ **学位**には、授与された大学名も記入して下さい。また、大学院の課程修了による学位は大学名の後にAと、論文提出による学位はBと記入して下さい。
- ④ **学会活動等**は、所属の学会名、役職名等を記載して下さい。
- ⑤ **賞**には、学術活動による表彰を記入して下さい。
- ⑥ **年の表示**については、西暦で記入して下さい。（以下共通）

2. 業績目録（様式1-2）

- ① **A～F**の各項について記入して下さい。（目録の1枚目から順に頁を付して下さい。）
- ② 目録**A～D**には、既に刊行されたものと、受理（accept）されて公刊予定となったもの（印刷中、in press）のみを記入して下さい。
（注1）記載は、欧文・和文に分けて、それぞれ発行年順に記入して下さい。
（注2）記載方法は、記載例を参照して下さい。本人には、アンダーラインを付して下さい。
（注3）共著者名は、業績に記載してある順に全員記入して下さい。
A. 原著とは、著者の研究成果をまとめたもので、**referee journal**に記載された論文を指します。
（注）学位論文に相当する原著の番号を○印で囲って下さい。
B. 症例・治験・手技の項には、A、C、Dのいずれにも属さないものを記載して下さい。
C. 総説には、展望・講座・解説等が含まれます。
D. 著書には、翻訳が含まれますが、その場合は（翻訳）と記して下さい。
- ③ **E. 学会発表**については、**a. 特別講演・シンポジウム**等、**b. 一般発表**（最近5年間の発表総数と主要なもの10題以内）をそれぞれ欧文・和文に分けて年代順に記入して下さい。なお、講演要旨或いは抄録の掲載記録は、行末に括弧を付けて記入して下さい。
- ④ **F. 研究助成金取得状況**については、文部科学省（文部省）・厚生労働省（厚生省）・その他（共同研究費、受託研究費（治験含む）、財団等の助成金等）に分け、また、代表研究者か分担研究者かを明記して下さい。なお、研究報告書は、括弧内に記入して下さい。

3. 教育実績（様式任意）

教育に関する研修歴、主な講義内容、教務・厚生・補導等に関する委員歴等その他教育に関する経験、実績等について記載して下さい。

- （注）1. 上記書類は、学内に公開されることがあります。
2. 上記書類は、原則としてA4版とし、ワード等を用いて作成して下さい。

履 歴 書

ふりがな ち ば た ろ う
 氏名・性別 千 葉 太 郎 Ⓜ 男
 生 年 月 日 1 9 5 0 年 5 月 3 1 日
 現 住 所 千 葉 市 中 央 区 亥 鼻 1 - 8 - 1
 現 職 千 葉 大 学 准 教 授 大 学 院 医 学 研 究 院 (〇〇学)

学歴及び職歴

1969年 4月 1日 千 葉 大 学 医 学 部 入 学
 1975年 3月 23日 千 葉 大 学 医 学 部 卒 業
 1975年 6月 1日 医 員 (研 修 医) (千 葉 大 学 医 学 部 附 属 病 院 〇〇科) (1976年 3月 30日 まで)
 1976年 4月 1日 千 葉 大 学 大 学 院 医 学 研 究 科 博 士 課 程 (〇〇系) 入 学
 1980年 3月 25日 千 葉 大 学 大 学 院 医 学 研 究 科 博 士 課 程 (〇〇系) 修 了
 1980年 4月 1日 研 究 生 (千 葉 大 学 医 学 部 〇〇学 講 座) (1982年 3月 31日 まで)
 1982年 4月 1日 医 員 (千 葉 大 学 医 学 部 附 属 病 院 〇〇科) (1983年 3月 30日 まで)
 1983年 4月 1日 文 部 教 官 千 葉 大 学 助 手 医 学 部 附 属 病 院 (〇〇科)
 1986年 9月 1日 文 部 省 在 外 研 究 員 (ア メ リ カ 合 衆 国 ペ ン シ ル バ ニ ア 大 学 医 学 部 生 理 学 講 座)
 (1987年 6月 30日 まで)
 1987年 12月 1日 千 葉 大 学 講 師 医 学 部 附 属 病 院 (〇〇科)
 1988年 4月 1日 厚 生 技 官 (国 立 〇〇病 院 〇〇科 医 長)
 1990年 4月 1日 文 部 教 官 千 葉 大 学 講 師 医 学 部 (〇〇学 講 座)
 2001年 1月 6日 中 央 省 庁 等 の 再 編 に 伴 い, 文 部 教 官 は 文 部 科 学 教 官 と な っ た
 2001年 4月 1日 文 部 科 学 教 官 千 葉 大 学 講 師 大 学 院 医 学 研 究 院 (〇〇学)
 2004年 4月 1日 国 立 大 学 法 人 法 の 規 定 に よ り 国 立 大 学 法 人 千 葉 大 学 職 員 と な っ た
 2004年 5月 1日 千 葉 大 学 助 教 授 大 学 院 医 学 研 究 院 (〇〇学)
 2007年 4月 1日 千 葉 大 学 准 教 授 大 学 院 医 学 研 究 院 (〇〇学)

免許及び資格 医 師 免 許 (登 録 番 号 123456 号) 1 9 〇 〇 年 〇 月 〇 日
 第 一 種 放 射 線 取 扱 主 任 者 (登 録 番 号 78910 号) 1 9 〇 〇 年 〇 月 〇 日
 日 本 内 科 学 会 認 定 医, 日 本 循 環 器 学 会 専 門 医

学 位 医 学 博 士 (千 葉 大 学 A) 1 9 8 0 年 3 月 2 5 日

学 会 活 動 等 日 本 薬 理 学 会 評 議 員, 日 本 生 理 学 会 員, 日 本 神 經 科 学 会 専 門 委 員
 International Brain Research Organization 会 員
 編 集 委 員: 蛋 白 質・核 酸・酵 素, Journal of Biological Chemistry

賞 罰 日 本 細 菌 学 会 黒 屋 奨 学 賞 (〇〇〇に 関 す る 研 究, 1 9 〇 〇 年)
 日 本 電 子 顕 微 鏡 学 会 瀬 藤 賞 (〇〇〇に 関 す る 研 究, 1 9 〇 〇 年)

業 績 目 録

A. 原著

- ①. Chiba T. Electron microscope observations on the fusion of chick myoblasts in vitro. J Cell Biol. 1980;48:128-42.
2. Kono M, Ishikawa K, Chiba T. Acetylcholine sensitivity of skeletal muscle cells differentiated in vitro from chick embryo. Brain Res.1987;25:216-9.
3. Grant S, Kobayashi H, Chiba T. Isolation and culture of motoneurons from embryonic chicken spinal cords. Proc Natl Acad Sci USA.1991;76:3537-41.
4. Suzuki N, Chiba T. Bader D. Molecular cloning and expression of chicken cardiac troponin T. Cir Res.1996;65:1246-51.
5. Hastings KEM, Koppe RI, Marmor E, Chiba T. Aoki N. Structure and developmental expression of troponin I isoforms. J Biol Chem. in press
6. 野田雄二, 唐沢義一, 千葉太郎, 工藤栄一 食道癌手術視野からみた気管支動脈の走行に対する解剖学的検討. 日外会誌 1990;94:456-65.
7. 小林秀雄, 千葉太郎, 石川洋一 右開胸食道癌根治手術時における上縦隔リンパ節の郭清可能範囲に関する研究. 日消外会誌 1997;26:2134-9.
8. 中野 浩, 伊藤浩二, 千葉太郎, 和田幸平 下肢刺激 SEP の随意運動による影響. 臨床脳波. 印刷中

B. 症例・治験・手技

1. Kawai A, Ishige T, Chiba T. Murayama W. Malignant exophthalmos associated with multiple myeloma. Inter Med. 1995;32:875-8.
2. Chiba T. Fujita M. A case of renovascular hypertension: segmental hypoperfusion resulting from single vessel stenosis in the presence of bilateral duplex renal arteries. Jpn Cir J. 1999;56:620-2.
3. 中野俊一, 千葉太郎, 橋本三郎 上皮小体の癌と腺腫の異時性重複と思われる 1 症例. 耳頭頸 1997;65:647-52.

C. 総説

1. Chiba T. Brain damage due to surgical injury to the cerebral vein. Clin Rev Neurosurg. 1996;3:191-5.
2. 千葉太郎 FACS を用いた細胞間接触と Ca²⁺ シグナルの検索. 実験医学 1997;11:93-8.

D. 著書

1. Peltz S, Chiba T, Jacobson P. mRNA turnover in *Saccharomyces cerevisiae*. In: Control of Messenger RNA Stability ed. Brawerman G, Belasco J, San Diego, CA: Academic Press Inc. 1995:291-327.
2. Woolford J, Chiba T, Warner R. The ribosome and its synthesis. In: The Molecular and Cellular Biology of the Yeast *Saccharomyces*: Genome Dynamics, Protein Synthesis and Energetics. vol.1, ed. Broach JR, Pringle JR, Jones EW, Cold Spring Harbor, NY: Cold Spring Harbor Laboratory Press, 1997:587-626.
3. 千葉太郎 心肺運動負荷テスト. 運動と呼吸, 谷村真一編, 南江堂, 東京, 1996:1-10.
4. 野口進一, 千葉太郎 レセプター遺伝子の発現と合成, レセプター: 基礎と臨床, 今井和夫編, 朝倉書店, 東京, 1997:92-105.

E. 学会発表

a. 特別講演・シンポジウム

1. Chiba T, Kawai A, Ishige T. Fetal cells in maternal blood: frequencies measured by the polymerase chain reaction (PCR) and in situ hybridization. 8th International Congress of Human Genetics Symposium. 1996 (Am.J.Hum.Genet.Suppl.1996;49:210-1.)
2. 千葉太郎 XYZ 症候群と精神障害. 第 85 回日本解剖学会総会. 1997 (解剖誌.1998;10:379-80.)

b. 一般発表 (最近 5 年間の発表総数〇〇題, うち主要なもの 10 題以内は以下のとおり)

1. 土屋伸也, 千葉太郎 食道静脈瘤の外科的治療. 第 81 回日本消化器病学会. 1996 (日消会誌. 1997;54:46.)
2. 田辺英男, 大竹昌彦, 千葉太郎, 河野雅敏 食道静脈瘤外科的治療における腹水の意義と管理. 第 82 回日本消化器病学会. 2000 (日消会誌. 2000;56:345.)
3. 千葉太郎, 野口進一 運動初期の換気亢進の検討. 第 71 回日本生理学会大会. 2000 (日生会誌.印刷中)

F. 研究助成金取得状況

a. 文部科学省（文部省）科学研究費

一般研究（B）「遺伝子発現，蛋白質合成及び構造形成の機構」研究代表者，1995-1996年

一般研究（A）「〇〇〇に関する細胞生物学的研究」研究代表者，1997-1999年

試験研究（B）（2）「〇〇〇に関する研究」研究分担者（研究代表者 〇〇大学 大沢三郎），
1994-1995年

重点領域研究（2）「〇〇〇に関する基礎的研究」研究分担者（研究代表者 △△大学 齋藤五郎），
1997-1999年（1997・1998・1999年度文部省科学研究費補助金重点領域研究（2）
研究報告書. 2000:708-11.）

b. 厚生労働省（厚生省）科学研究費

精神・神経疾患研究委託費「〇〇〇に関する研究」研究分担者（研究代表者 ××大学 小杉六郎），
1994-1996年（厚生省精神・神経疾患研究委託費平成元年報告書.1995:63-7. 1995年報告書.1996:50-5.
1996年報告書.1997:53-8.）

c. その他（共同研究費、受託研究費（治験含む）、財団等の助成金 等）

受託研究費 「〇〇〇〇〇〇についての研究」研究代表者（△△製薬）

Muscular Dystrophy Association "Neuronal control of postsynaptic muscle protein". 1997-1999.
(Annual Report.1997:105-10,1998:150-5, 1999:161-5.)

〇〇記念財団自然科学研究「〇〇〇に関する研究」研究代表者（〇〇記念財団自然科学研究報告書
1997:187-9.）